



11月4日(木)「アートウィーク東京」開幕!

国際的に活躍するギャラリーから新世代のアーティスト・ラン・スペースまで、国立美術館からプライベートミュージアムまで。現代アートを牽引してきた都内50のギャラリーと美術館が集い協働し、東京という都市の文脈に息づく現代アートを世界に向けて発信するかつてない規模のアートイベント「アートウィーク東京」が初めて開催されます。会期中は、アートに乗せて走る「アートバス」を乗りこなし、個性豊かな街の散策を楽しみながら、都内各地域に広がる50の会場へアクセス。ここ東京で、国内外の、若手から世界に名を馳せるアーティストまで素晴らしい作品の数々に触れられるチャンスです。

「アートウィーク東京」は年に一度、東京のアートシーンを世界に向けて発信する場として、来年以降も継続し開催していきます。

artweektokyo.com @artweektokyo

アートウィーク東京

会期：2021年11月4日(木)ー11月7日(日)

時間：10:00-18:00 *東京オペラシティアートギャラリー、ワタリウム美術館は11時開館。

会場：美術館6館・ギャラリー44軒

「アートウィーク東京」開催にあたり

アデリーン・ウーイ

Art Basel ディレクター・アジア

第1回「アートウィーク東京」をサポートすることができ、心より嬉しく思います。

また、東京の豊かな現代アートシーン、東京中から集まった参加者とコラボレーターによる素晴らしいコミュニティを紹介できることを大変光栄に思います。東京はアートバーゼルにとって特別な場所です。世界のなかでも類を見ない魅力的な都市のひとつで、アートとカルチャーにとって重要な場所であるばかりでなく、幸運にもここで築いてきた友情があるからです。東京の多彩なクリエイティビティに光を当てるこの取り組みに関わることは、私たちにとってごく自然なステップでした。

小山 登美夫

一般社団法人日本現代美術商協会 代表理事、小山登美夫ギャラリー代表

東京はとても広い範囲に渡って、ギャラリーが点在しています。

これらの場所をバスで巡るという試みは、昔から皆が夢見ていたことですが実現することはありませんでした。

だから今回、それが起こるといことがとても面白いと思っています。

海外の方にとってはもちろん、日本人、東京の人でさえ、この街のこれだけの広さを巡るのは難しいと思いますが、バスによって一気に巡ることができます。バスの中にはいろんなプログラムが用意されているのも良いと思いますし、さらに出会った人が繋がっていけるということもあって、この後の東京がどう変わっていくのか、楽しみにしています。

片岡 真美

森美術館 館長

3つの重要なポイントを見出しています。

ひとつは、フリーズ（ロンドン）などアートフェア開催時（コロナ前）の街は、街中がベストなプログラムを用意し、街中のアートスペースを周り、名だたる美術館は早朝から特別プログラムを用意するなど盛り上がりを見せます。アートウィーク東京はアートフェアという形ではありませんが、盛り上がりを見せ、一時期に集約して現代アートを観る機会をつくれたことはとても素晴らしいことです。

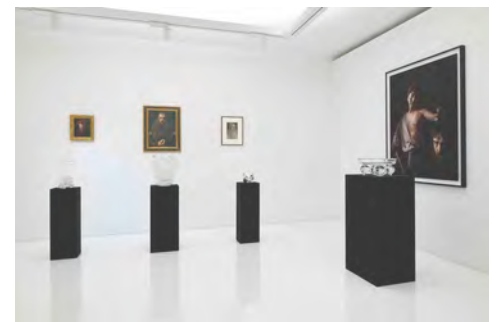
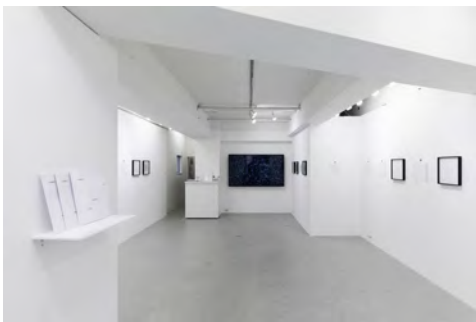
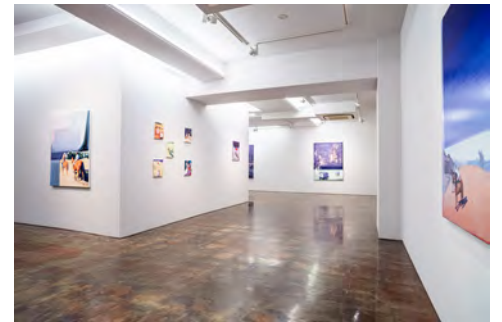
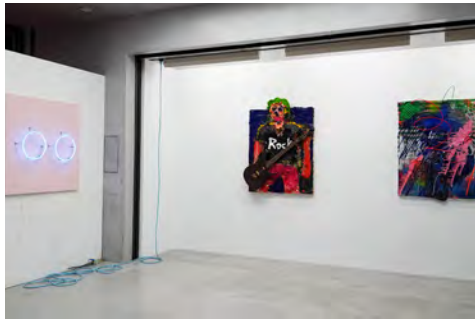
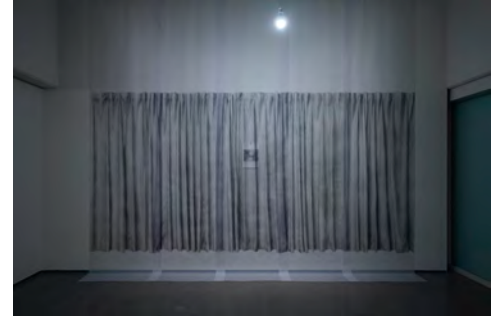
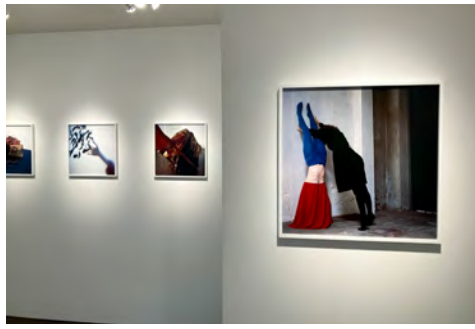
2つめは、美術館とギャラリー、アーティストが連携をすることにとっても意味があると思っています。コマーシャルギャラリー、非営利の美術館など、異なる立ち位置のセクターが連携をすることで、東京のアートシーンのエコシステムが実感できる機会になるということに重要性を感じています。もう一つは、世界の近現代美術館のプロフェッショナルが集まる国際美術館会議（CIMAM）のメンバーが、コロナ禍で過去最大の650人以上に増えました。これは様々な国のミュージアムプロフェッショナルが、世界と繋がりたいと思っている欲求の表れだと思います。

今後コロナが収束していき、海外から人々が東京にやってくることを考えると、アートウィーク東京のような受け皿があることはとても意味があり、このことを視野に入れながら発展して欲しいと思っています。

村上 隆

アーティスト、カイカイキキ 代表

アートウィーク東京は、海外から日本へ色々な人が集まってくる世界のアートカレンダーに入るものとして、機能していけるのではないのでしょうか。そして、将来的には、学術的にも、経済的にも、日本がアートワールドの国際的な拠点になる機会をアートウィーク東京は創出することができると思います。



展覧会会場風景 (抜粋)

【一列目左より】和田真由子 Wandering rocks (児玉画廊)

尾黒久美 HESTER (POETIC SCAPE)

「YAKIMONO」 日下翹央 / リズ・ラーナー / マシュー・ルッツ・キノイ & ナツコ・ウチノ / ウィリアム・J・オブライエン / スターリング・ルビー / ルシア・ビダレス (タカ・イシイギャラリー)

【二列目左より】ウィル・ローガン 個展 (MISAKO & ROSEN)

Jasper Johns: Eyes in the Persistence of Form (ファergus・マカフリー東京)

橋本晶子 I saw it, it was yours. (ギャラリー小柳)

【三列目左より】山谷佑介 KAIKOO (ユカ・ツルノ・ギャラリー)

COMBINE! 鬼頭健吾・小金沢健人・水戸部七絵・やんツー (rin art association @ CADAN 有楽町)

クリスチャン・プーレイ Distance (Gallery 38)

【四列目左より】エキソニモ CONNECT THE RANDOM DOTS (WAITINGROOM)

名和晃平 Tornscape (スカイザバスハウス)

森村泰昌、三嶋りつ恵 わたしはどこに立っている (シュゴアーツ)

一列目左より: Installation view of Mayuko Wada's exhibition "Wandering rocks," Kodama Gallery, 2021 Courtesy of the artist and Kodama Gallery

Installation view of Kumi Oguro's exhibition "HESTER," POETIC SCAPE, 2021 Courtesy of POETIC SCAPE

Installation view of the group exhibition "YAKIMONO," Taka Ishii Gallery, 2021 Courtesy of Taka Ishii Gallery, photo by Kenji Takahashi

二列目左より: Installation view of Will Rogan's exhibition, MISAKO & ROSEN, 2021 Courtesy of the artist and MISAKO & ROSEN, photo by Kei Okano

Installation view of Jasper Johns's exhibition "Eyes in the Persistence of Form," Fergus McCaffrey Tokyo, 2021 © Jasper Johns and ULAE/Licensed by VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York. Published by ULAE; Courtesy of Fergus McCaffrey Gallery, photo by Ryuichi Maruo

Akiko Hashimoto, *Curtain*, 2020 Production cooperation by Shiseido, photo by watsonstudio

三列目左より: Installation view of Yusuke Yamatani's exhibition "KAIKOO," Yuka Tsuruno Gallery, 2021 Photo by Ken Kato

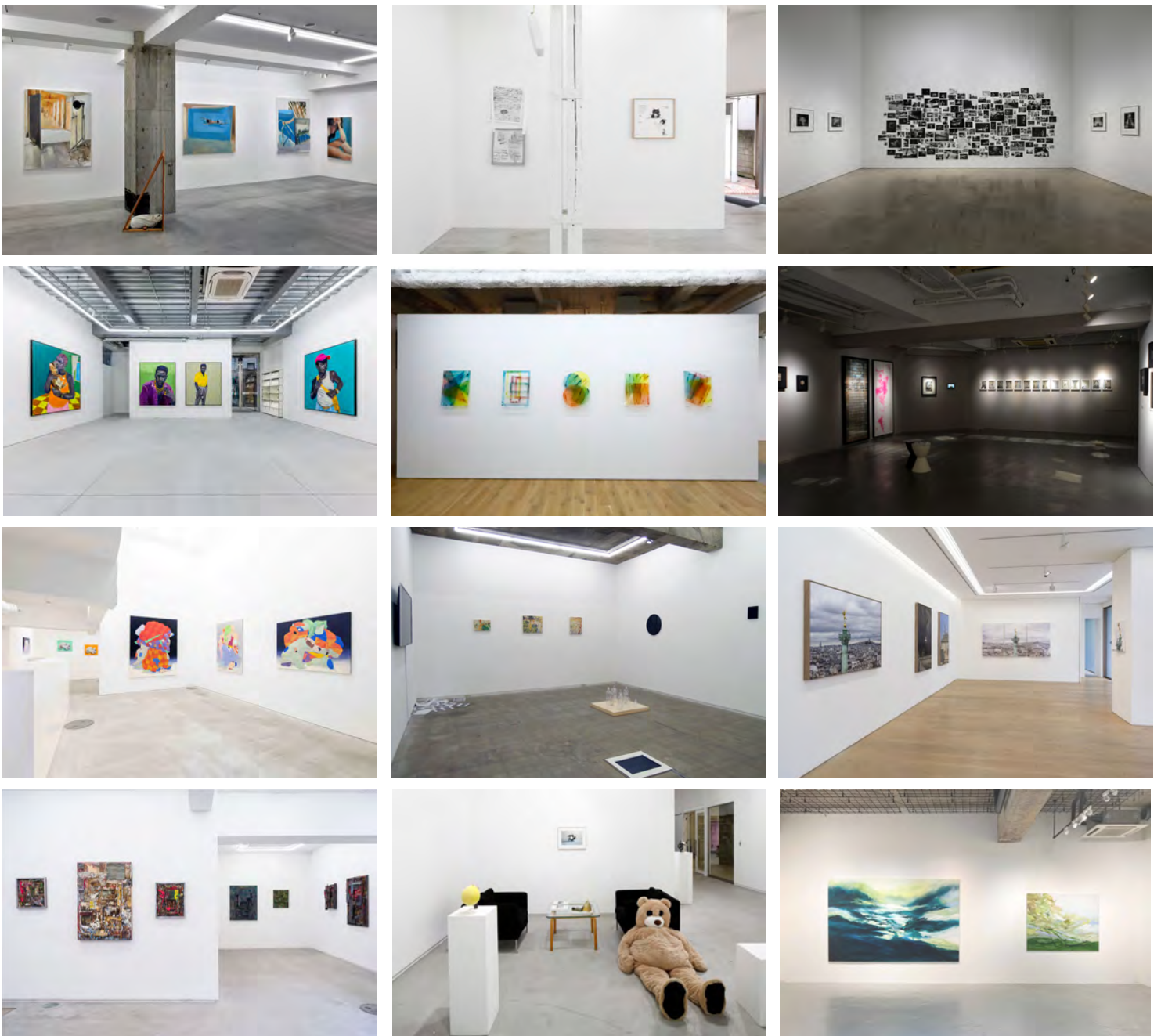
Installation view of the group exhibition "COMBINE !," rin art association @ CADAN YURAKUCHO, 2021 Courtesy of rin art association

Installation view of Christiane Pooley's exhibition "Distance," Gallery 38, 2021 © Christiane Pooley, courtesy of Gallery 38, photo by Takahiro Tsushima

四列目左より: Installation view of exonemo's exhibition "CONNECT THE RANDOM DOTS," WAITINGROOM, 2021 Photo by Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

名和 晃平 (tornscape)

Installation view of Morimura Yasumasa and Mishima Ritsue's exhibition "Where I Am Standing," ShugoArts, 2021 © the artist, courtesy of ShugoArts, photo by Shigeo Muto



展覧会会場風景 (抜粋)

- 【一列目左より】ヒルミ・ジョハンデ Landscapes and Paradise: Poolscares (オオタファインアーツ)
10周年記念展 In their shoes 2 イーライ・ポアナウスキー / 藤田 道子 / 樫田 伸也 / 大野 綾子 / 高木 大地 / エヴリン・タオチェン・ワン (カヨコユウキ)
ジュン・グエン=ハツシバ 死の間-生の気配 (ミヅマアートギャラリー)
- 【二列目左より】ワハブ・サヒード SOME DAYS ARE DIAMOND (ナンヅカ アンダーグラウンド)
秋吉風人 Purple Green Orange (TARO NASU)
現代ダゲレオタイプ展「ケア:今日のダゲレオタイプ——不確実性の時代のために」新井卓、ビン・ダン、マイク・ロビンソン、ジェリー・スパニョーリ、
クレグ・タフェン 公募入賞者: グラント・ローマー、望月容子、シモン・シュール (別名ニーナ・ザラゴザとエレヌ・ヴェドレーヌ)、アケ・ハルトマン、
アントン・オーロフ (PGI)
- 【三列目左より】アレックス・ダッジ LAUNDRY DAY: IT ALL COMES OUT IN THE WASH (Maki Fine Arts)
ヌケガラ (OFF) とマトイ (ON) (正体を隠すこと (ON) とそれを脱ぎ捨てること (OFF) の、あいだにあるものを教えなさい) O,1、2人 (外島貴幸 + 吉田正幸)
木下令子、小宮りさ麻吏奈、関真奈美、鄭梨愛、辻可愛、ミルク倉庫 + ココナッツ、他 (TALION GALLERY)
JR Contretemps (ペロタン東京)
- 【四列目左より】大竹伸朗 残景 (Take Ninagawa)
永田康祐 Equilibres (ANOMALY)
ホワン・ピンリン (黄品玲) 川面から昇る夢 (日動コンテンポラリーアート)

一列目左より: Installation view of Hilmi Johandi's exhibition "Landscapes and Paradise: Poolscares," Ota Fine Arts, 2021

Installation view of the group exhibition "In their shoes 2," KAYOKOYUKI, 2021 Photo by Keizo Kioku

Installation view of Jun Nguyen-Hatsushiba's exhibition "While I am Dead - A Prelude to Life," Mizuma Art Gallery, 2021 Photo by Kei Miyajima

二列目左より: Installation view of Wahab Saheed's exhibition "SOME DAYS ARE DIAMOND," NANZUKA UNDERGROUND, 2021 ©Wahab Saheed, courtesy of Nanzuka

Installation view of Futo Akiyoshi's exhibition "Purple Green Orange," TARO NASU, 2021 © Futo Akiyoshi, courtesy of TARO NASU, photo by Keizo Kioku

Installation view of the group exhibition "Care: In an Age of Uncertainty," PGI, 2021 © PGI

三列目左より: Installation view of Alex Dodge's exhibition "LAUNDRY DAY: IT ALL COMES OUT IN THE WASH," Maki Fine Arts, 2021

Installation view of the group exhibition "Cast off skin (OFF) and put on something (ON) (Give answer of what exists between hiding origins (ON) and taking off them (OFF))," TALION GALLERY, 2021

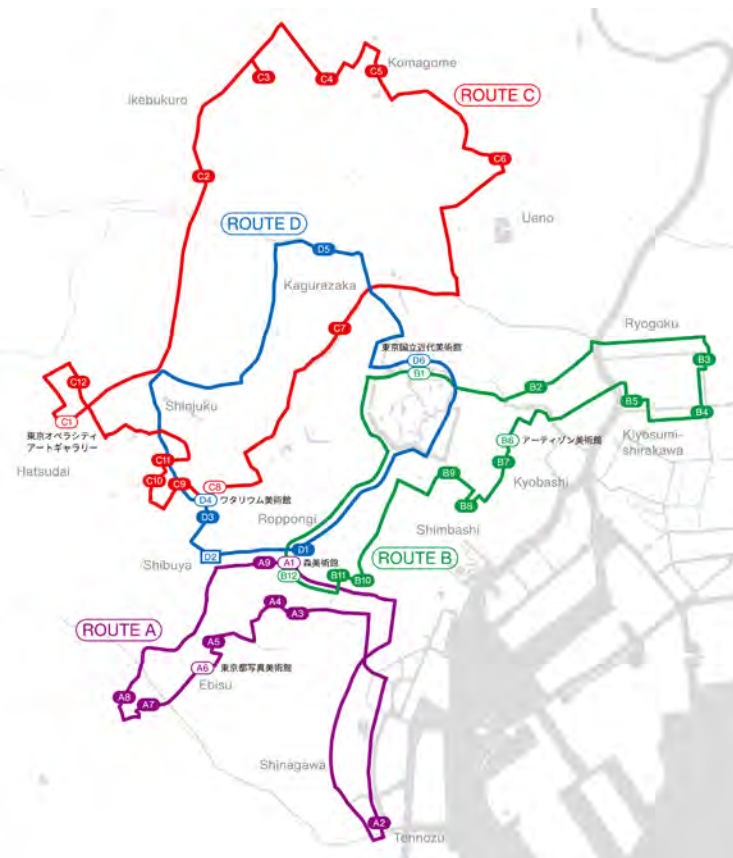
Installation view of JR's exhibition "Contretemps," Perrotin Tokyo, 2021 © JR / ADAGP 2021, courtesy of the artist & Perrotin, photo by Kei Okano

四列目左より: Installation view of Shinro Ohtake Courtesy of Take Ninagawa, Tokyo Photo by Kei Okano

Installation view of Kosuke Nagata's exhibition "Equilibres," ANOMALY, 2021 Courtesy of ANOMALY, photo by Keizo Kioku

Installation view of Pin-Ling Huang's exhibition "Dreams Rise From the River Surface," nca | nichido contemporary art, 2021

■ 4つのルートと参加美術館、ギャラリー



ROUTE A

A1 森美術館 ～ A2 ANOMALY / 児玉画廊 / ユカ・ツルノ・ギャラリー ～ A3 MISA SHIN GALLERY ～ A4 カイカイキキギャラリー ～ A5 MEM ～ A6 東京都写真美術館 ～ A7 POETIC SCAPES ～ A8 青山目黒 ～ A9 ギャラリーサイド 2

ROUTE B

B1 東京国立近代美術館 ～ B2 タグチファインアート ～ B3 無人島プロダクション ～ B4 KANA KAWANISHI GALLERY ～ B5 ハギワラプロジェクト ～ B6 アーティゾン美術館 ～ B7 ギャラリー小柳 / 日動コンテンポラリーアート ～ B8 THE CLUB / 東京画廊 +BTAP ～ B9 rin art association @ CADAN 有楽町 ～ B10 PGI ～ B11 Take Ninagawa ～ B12 森美術館

ROUTE C

C1 東京オペラシティ アートギャラリー ～ C2 タリオンギャラリー ～ C3 Fig. / MISAKO & ROSEN ～ C4 4649 / XYZ collective ～ C5 カヨココウキ ～ C6 スカイザバスハウス ～ C7 ミヅマアートギャラリー ～ C8 ワタリウム美術館 / MAHO KUBOTA GALLERY ～ C9 ナンヅカ アンダーグラウンド ～ C10 Blum & Poe ～ C11 Gallery 38 ～ C12 ユミコ チバアソシエイツ

ROUTE D

D1 オオタファインアーツ / KOTARO NUKAGA / 小山登美夫ギャラリー / シュウゴアーツ / タカ・イシイギャラリー / TARO NASU / ペロタン東京 / Yutaka Kikutake Gallery ～ D2 AWT インフォメーションセンター ～ D3 ファーガス・マカフリー 東京 ～ D4 ワタリウム美術館 ～ D5 WAITINGROOM / Maki Fine Arts ～ D6 & B1 東京国立近代美術館

■ 4ルートを走る「アートバス」車内でのみ体験できる特別企画「都市を巡る声」

4つのバスのルートごとに、4組のアーティストによる異なる4つの作品がご体験いただけます。参加アーティストは、**グループ・音楽**、**塩見允枝子**、**高山明**、**毛利悠子**。企画は、ポンピドゥー・センターをはじめとする美術館で活躍してきた**ユン・マ氏**。4組のアーティストが創造する「声」と共に東京を巡ります。*バスのご乗車にはAWTのパスが必要です。



A ルート

グループ・音楽

東京藝術大学音楽学部楽理科の学生だった水野修孝、小杉武久、塩見允枝子、刀根康尚らによる集団即興演奏のグループ。1960年から62年にかけて固定化された楽譜から音楽を解放し、時間と空間に対応した音響創りを探求した。今回のアートバスでは、60年にメンバーが水野の自宅で楽器、ラジオ、掃除機、ドラム缶、食器などで音を出し、集団的即興行動の軌跡である音響を記録した2曲と、61年に草月会館ホールで開催された公演会第2部の録音を紹介する。

C ルート

塩見 允枝子 (しおみ みえこ)

フルクサスの重要なメンバーの一人、塩見は音楽を起点に活動をスタートし、自然や日常の事象などを対象とする「イベント」と呼ばれる行為の芸術を行ってきた。塩見のイベントやパフォーマンスには、コンセプトや演奏法をことばで表現したインストラクション(指示書)があり、それに基づく行為を通して作品は成立する。今回のアートバスでは《AWT 巡回バスの為の五つのイベント》のインストラクションを制作。乗客は、バスの中で聞こえる音や目にするこ

とばに意識を向け、各自好きなイベントを行う。

B ルート

毛利 悠子 (もうり ゆうこ)

東京の街をご当地ソングとともにバスで巡る新作のサウンド・プログラムを発表。男女の恋や流行風俗といった都市生活者の姿を描いてきた日本の「歌謡曲」というジャンルは、東京の国際化につれて多様なサウンドを取り込みながら、映画やラジオ、テレビなどの新興メディアに乗って隆盛を極めた。ネオン煌めく銀座や六本木……人々の欲望が渦巻く東京の姿と、敗戦から復興へといたる昭和後期に花開いた歌謡曲の歴史とを重ね、ムード歌謡歌手で芸人のタブレット純と音楽評論家の湯浅学が、歌を通して東京の街を案内する。

D ルート

高山 明 (たかやま あきら)

1937年から1945年にかけて制作された「戦争画(戦争記録画)」は、終戦後GHQが接收、1970年に「無期限貸与」というかたちで日本に返還され、現在は東京国立近代美術館に153点が収蔵されている。高山明による「戦争画/ヘテロトピア-東京国立近代美術館編」は、各絵画の舞台となった国の詩人が詩を創作し、本人による原文朗読と日本語訳の朗読を通して、目の前には存在しない戦争画を「展示」するプロジェクト。今回はそのうちの5点を題材に、バスの中での「展示」を試みる。

■アートウィーク東京 開催概要



会期：2021年11月4日（木）－11月7日（日）

時間：10:00–18:00 *東京オペラシティアートギャラリー、ワタリウム美術館は11時開館。

会場：美術館6館・ギャラリー44軒

主催：一般社団法人 コンテンポラリーアートプラットフォーム（JCAP）

協力：Art Basel（アートバーゼル）、一般社団法人 日本現代美術商協会（CADAN）

■アートウィーク東京 (AWT) パス

会期中に運行する「アートバス」に乗り降り自由なパス。中学生以下無料。

- ① AWT パス 1,000円（1日有効）
- ② AWT ペアパス 1,800円（1日有効、2名分）
- ③ AWT 4-DAY パス 2,000円（4日有効）
- ④ AWT エクストラパス 2,800円（1日有効、数量限定オリジナルトートバッグ付）

パス特典

- ・有効期間内はどのルート、どのバスにも乗り降り自由。
- ・パスの提示で美術館で割引や特典を受けられます。（詳細は公式ウェブサイトパス購入ページでご確認ください。）

ご購入は公式サイトより：artweektokyo.com

*シャトルバスでは、車両の窓開けや空調装置による車内換気、アルコール消毒液の設置、一部座席の利用停止、乗務スタッフのマスク着用や手指消毒の励行等の新型コロナウイルス感染症予防対策を実施します。

■オンライントークシリーズをアーカイブ配信しています

日本の現代アート的美術史的文脈やその楽しみ方に焦点をあてたオンラインのトークシリーズを開催。

公式YouTubeチャンネルでアーカイブ配信中。アートウィーク東京オフィシャルサイトのコンテンツ、「TALKS」をご覧ください。

1. 10月4日（月）開催

保坂健二郎／滋賀県立美術館ディレクター（館長）× 藤村龍至／建築家、東京藝術大学建築科准教授

対談：アートと都市の近未来 東京の近過去 1964－2021 から考える

2. 10月20日（水）公開

片岡 真実／森美術館 館長

レクチャー：「変遷する芸術の価値 評価するのは「どこ」の「だれ」なのか？」

3. 10月27日（水）公開

ロジャー・マクドナルド／キュレーター、エドゥケーター×アンドリュー・マークル／アートライター、エドゥケーター

対談：日本のアート教育の現在地 教育に「王道」はあるか？

4. 11月3日（水）公開

塩見允枝子 × 橋本梓／国立国際美術館主任研究員

インタビュー：時間と空間を越えて：塩見允枝子の世界

【Press Contact】

AWT プレス：デイリープレス（担当：竹形）

t. 03-6416-3201 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org